

夏季特別インタビュー

機能性表示

国際栄養食品協会理事長 天ヶ瀬晴信氏に聞く

健康業界が健全な発展を遂げるためには、そこに携わる人材の育成も必要となる。今年9月開講の「AIFNオープンカレッジ新講座」についてAIFNの天ヶ瀬晴信理事長に話を聞いた。また、機能性表示食品制度ができてゆく過程で業界代表の一人として制度設計に深く関わった同氏に、現在の機能性表示制度への見解を聞いた。(小長谷)

「AIFNオープンカレッジ」について教えてください。
天ヶ瀬 当協会では、ミッションステートメントの一つに「健康食品全般の一般消費者への啓発活動」といった教育事業を掲げており、2012年から「AIFNオープンカレッジ」として専門セミナーや公開セミナーなどを行ってきました。

9月からの新講座では「業界人のための」と銘打っていますが、これまでとの違いは。
天ヶ瀬 これまでのように、一つのテーマやタイムリーな情報に特化したもので

規参入も相次いでおり、製品開発やマーケティング担当者に加えて、セールズや法規などさまざまな部門の担当者も含め、広い分野での専門知識を伝達する必要性が増しています。また、そうした知識を基礎的に習得しておくことで、製品の開発や宣伝広告、消費者への啓発がより正しく伝わる

アップにつながればと考えています。

「AIFNオープンカレッジ」の目標は。

天ヶ瀬 9月からの新講座では、業界人として知っておいてほしい、本質的なことを学んでもらうため、日本を代表する栄養領域のトップクラスの方々にも趣旨を理解していただき、講

業界人の学びの場「オープンカレッジ」開講

業界の健全な発展に貢献することを目指しています。

「AIFNオープンカレッジ」の根底には、業界として自分たちの人材を育ていく社会人カレッジという考え方があります。新講座が業界全体のスキル

また、将来的にこの活動が業界全体で進めていく人材育成プログラムになっていくことを期待しています。

国の施策や動向に対して業界が力を合わせて協力し、制度をよりよくしていくことが必要です。業界の一人としてその制度の更なる発展に寄与し尽力していくことは非常に重要ですし、そのために業界人の学びの場としてのオープンカレッジの意義は大きいと思います。



●プロフィール

天ヶ瀬晴信(あまがせはるのぶ)氏/長崎大学薬学部卒、薬剤師、薬学博士(薬理学)。広島大学から学位授与後1990年に米国に渡り、ペンシルバニア州立大学で栄養学のポスト・ドックを行ったことを皮切りに合計23年間米国に滞在。2013年に帰国。1994年に米国の制度ができてから、研究開発から學術・品質管理など広く企業側からその運用に当たった。在日米国商工会議所のサプリメント小委員会委員長、広島大学シニア・リサーチ・アドミニストレーターを務める。

性表示食品制度についてどうお考えですか。
天ヶ瀬 当協会は、栄養補助食品や健康食品に関する国際的ハーモナイゼーションを喚起し、日本のサプリメントを含む健康食品市場がより健全にグローバルな視点で発展することを目指しています。

日本の機能性表示食品制度は、海外からの関心は高いのですが、公式な英語版のガイドラインなどもなく、参入障壁は非常に高いものとなっています。

また、当初は米国の制度を参考にして検討が始まった機能性表示食品制度ですが、米国の制度と比べてもだいぶ乖離していると感じます。

「ありがとうございました」